

地域の神社に若者を呼ぶためのイベントデザイン

○磯 帆乃佳 （近畿大学 経営学部 布施匡章ゼミナール）

1. はじめに

本稿で紹介するのは、神社と大学生が産学連携により生み出したイベントとその背景である。近年若者を中心に“御朱印集め”を趣味とする人をよく見かける。他にもパワースポットとされている神社が観光の目的となったり、大きな神社でのイベントがテレビで取り上げられたり、神社は参拝することに留まらないスポットに変化している。

そんな中、地域に愛される小さな境内の神社に新たな参拝者を呼ぶには、何が必要とされるのだろうか。

我々 近畿大学経営学部布施ゼミナールは、大阪府松原市の地域に愛される神社・阿保神社様と共に、若者を中心とした新たな参拝者を獲得するためのイベントを共同で実施。若者が阿保神社に足を運ぶことを外出の目的にするようなイベントを企画し、地域の神社に新たな参拝者を呼び込むために必要なことを考え、追求した。

2. 阿保神社について

今回共同研究を行う運びとなった阿保神社は、大阪府松原市に所在する。慶長13年に本殿が再建されたとされているほど歴史が長く、その本殿には菅原道真公が祀られている。大きな見どころとされるのは以下の2点である。

① 花天井

拝殿にある48枚の花柄の天井。江戸時代後期のものと推測されているが詳細は不明。

② 三本の御神木

樹齢一千年を超えるとされる大くすの木など、境内には三本の御神木がある。

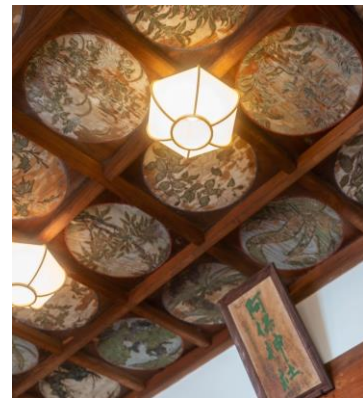


図1：花天井

3. 課題とコンセプト

本研究は、阿保神社から近畿大学に寄せられた“若者などの新規参拝者を獲得し、花天井の修復金に繋げられるような新しい取り組みをしたい”という依頼から始まった。

そこで私たちは現地への訪問やヒアリングを重ね、以下の2点を阿保神社の課題点として捉えた。

① 行動のきっかけになりづらい点

最寄り駅から少し距離があることや、住宅街の中に所在すること、境内が狭く滞在時間が自ずと短くなることから、「阿保神社に行くこと」自体が出かける目的となりにくい

② 花天井にまつわるものが少ない点

唯一無二の見どころでありながら、花天井をアピールするものが少ない。花天井を阿保神社のアイデンティティとして確立できる何かが必要とされる。

この課題を踏まえ、(1)予定を組む際に阿保神社に来ることを目的としたくなる、(2)花天井の素晴らしさをシェアしたくなる、の2点をイベントのコンセプトに据えた。また、最終ゴールを“阿保神社のアイデンティティ確立”とし、阿保神社でしかできないイベント創りを約7か月、ゼミ生20名で企画した。その結果、2023年7月「明起（あお）まつり」を実施する運びとなった。

4. 実施内容

4-1.実施したこと1：境内のライトアップ

くすの木のライトアップをメインとし、他にも花天井をイメージした光る造花や傘を設置し光の装飾で境内を彩った。

4.2.実施したこと2：体験型イベント

参拝者が願い事を記入した花形の紙を木のイラストに貼ることで、満開の木を完成させる参加型のイベントを実施した。

4.3.実施したこと3：手持ち提灯のレンタル

花天井をモチーフに学生が手作りした48種類の紙袋提灯を参拝者にレンタル配布。SNS投稿でチェキをプレゼントする企画も実施した。

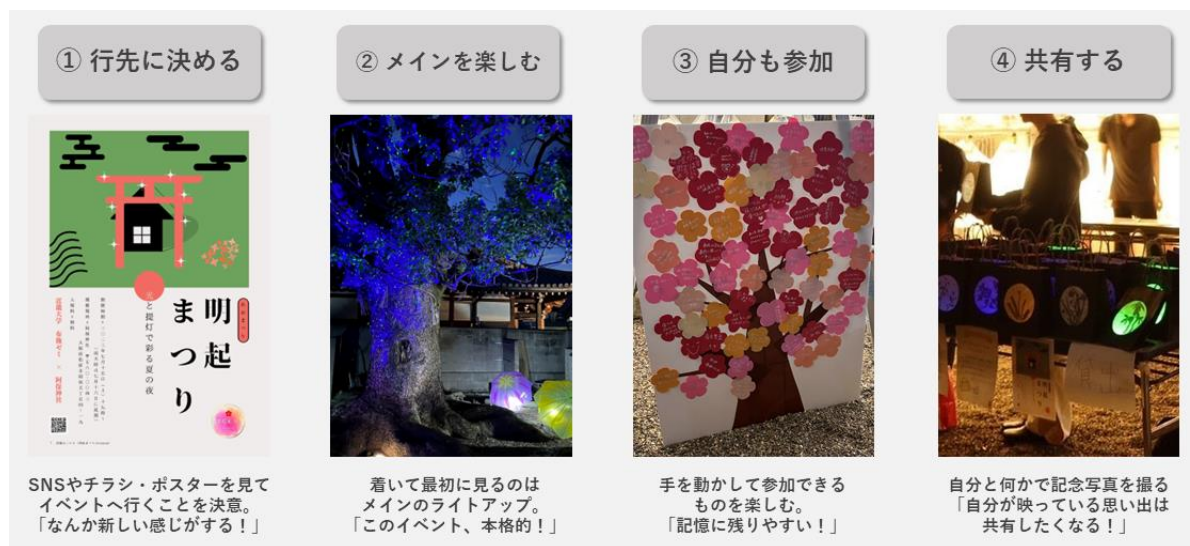


図 2：明起まつりの体験フローイメージ (左から：ポスター、境内のライトアップ、体験型イベント、手持ち提灯)

5. 実施結果

19～20 時までの 1 時間をピークとし、我々が想像していた以上の参拝者が来場してくれた。ライトアップを背景に紙袋提灯を持った写真を撮影する方が多く見られ、中には SNS にシェアして下さった方もいた。

このイベントを目的に外出したという声も多かったのは目的の達成を感じた一方で、近隣の方が大半を占めており、遠方からの新たな参拝者を多く獲得することはできなかった。また、若者の参拝者よりも親子の参拝者が多く見られたことから、SNS でのシェアにより花天井の素晴らしさを広めたいという点に関しては反省の残る結果となった。

6. おわりに

本研究では、阿保神社と近畿大学の産学連携プロジェクトとして、地域の神社に若者を中心とした新規参拝者を呼び込む方法を検討した。結果として、阿保神社のアイデンティティ確立を目的とした“明起まつり”を開催し、ライトアップや体験型イベント等のアイデアを実施した。参拝者の数は想定より多かったものの、近隣からの来場が多く、遠方からの新規参拝者の獲得には課題が残る結果に終わった。

本イベントは、2024 年夏ごろに新たなアイデアを含めて再度実施する予定である。今後も本研究を通じて、新規参拝者の獲得に繋がるイベントの検討を続けていく。

【謝辞】

本研究は、阿保神社との産学連携プロジェクトとして実施した。
本研究にご尽力下さった宮司・山野美江様を筆頭とする阿保神社の皆様、徳島大正銀行 吉澤様と高見の里支店の皆様、そして当日ご来場頂いた皆様に深く感謝申し上げます。